

再認定申請記載例

様式第1号（第3条第1項関係）

平成 年 月 日

長野県知事 様

自筆の場合は
押印不要です

住 所 松本市島立 1020

氏 名 長野 太郎 印

電話番号

認定農業者： 該 当 (H23年4月1日認定)

非該当

認定農業者の方は認定
日を記入してください

持続性の高い農業生産方式の導入計画認定申請書

持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律(平成11年法律第110号)第4条第1項の規定に基づき、持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する計画の認定を申請します。

添付資料として、

- ① 圃場の場所がわかるように示した地図
- ② 土壌診断結果
- ③ くみあい肥料ガイドブックに掲載されていない肥料を用いる場合は肥料成分がわかる資料(袋に記載されているものを撮影した写真でも可)を提出してください。

本票による個人情報の収集目的は下記の通りです。

記

○「持続性の高い農業生産方式の導入計画」の認定事務のため

- ・「認定農業者」の欄は「該当」又は「非該当」のいずれかに○印をすること
(「認定農業者」とは、農業経営基盤強化促進法(昭和55年法律第65号)第12条第1項の規定により市町村長の認定を受けた者をいいます。)

様式第2号（第3条第1項関係）

持続性の高い農業生産方式の導入に関する計画

（目標：平成 年度）

1 持続性の高い農業生産方式の導入に関する目標

(1) 農業経営の概況

	水田	普通畑	樹園地	その他	合計
経営面積	300 a	45 a	90 a	a	435 a
労働力	農業従事者 男 1人(うち専従者 0人) 女 1人(うち専従者 1人)				

所有している全ての農地に関して、面積を項目ごとに記入してください。

注 「経営面積」には、借

「導入」欄には今回申請する農作物の作付面積を、「全体」欄には当該農作物の全作付面積を延べ面積で記入してください。1年目から技術を導入するよう、計画を策定してください。

(2) 作物別生産方式導入計画

作物名		生産方式導入農地の所在地	1年目	3年目	4年目	(H年)	
生産方式	水稻	松本市島立1020・1021・1022	導入	300 a	300 a	300 a	300 a
			全体	300 a	300 a	300 a	300 a
方			導入	a	a	a	a
			全体	a	a	a	a
作			導入	a	a	a	a
			全体	a	a	a	a
物	小計	—	導入	300 a	300 a	300 a	300 a
			ア全体	300 a	300 a	300 a	300 a
小計	—	—	イ	135 a	135 a	135 a	135 a
			ア+イ	435 a	435 a	435 a	435 a
合計	—	—	435 a	435 a	435 a	435 a	

今回申請する作物を栽培する農地の地番を記載してください。添付の地図にそれぞれの農地の位置を忘れずに記載してください。

エコファーマーを申請する農地以外にも農地を所有している方は、「その他作物」欄にその面積を記入してください。

注1 目標年は、原則として5年後とすること。

注2 「生産方式導入作物」の上段には、導入しようとする農業生産方式に係る農作物の作付面積を記入し、下段には、当該農作物と同じ種類の農作物の作付面積の合計を記入すること。

注3 「その他作物」には、今回申請しない農作物の農地の作付面積の合計を記入すること。

(3) 生産方式の内容

作物名	収量	現行の生産方式と導入する生産方式の内容	資材の使用の量・回数
水稻	現状	有機質資材施用技術 (現状) たい肥等有機質資材施用技術 稲わら500kg/10aを10月に全面施用 (N:0.5%、C/N比60.0)	※堆肥の総量及びN量 現状 0.5 t/10a 2.5kgN/10a
	500 kg/10a ※現在の収量を記入してください	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 現在使用している技術内容や堆肥等を記載してください。 窒素割合、C/N比と10aあたり投入量も記載してください。 </div> (目標) たい肥等有機質資材施用技術 現状のとおり 秋に土壌診断を実施 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 導入予定の技術内容や堆肥等を記載してください。 窒素割合、C/N比と10aあたり投入量も記載してください。 </div>	※現在施用している堆肥量と、堆肥の窒素含有量を記載してください 目標 0.5 t/10a 2.5kgN/10a ※5年後に施用する予定の堆肥量等を記載してください
	500 kg/10a ※5年後に目標とする収量を記入してください (現状と同じでも構いません)	化学肥料低減技術 (現状) 有機質肥料施用技術 有機源(N:10.9% 有機100%)40kg/10aを施肥 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 現在使用している技術内容や窒素肥料を記載してください。化学肥料由来の窒素の割合と10aあたり投入量も記載してください。 </div> (目標) 有機質肥料施用技術 現状のとおり <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 導入予定の技術内容や窒素肥料を記載してください。化学肥料由来の窒素の割合と10aあたり投入量も記載してください。 </div>	※化学N量(有機Nは除く) 現状 0 kgN/10a ※化学肥料由来の窒素量を記載してください 目標 0 kgN/10a ※5年後に施用する予定の、 <u>化学肥料由来の窒素量を記載してください</u>
		化学農薬低減技術 (現状) 温湯種子消毒 種子温湯処理により、種子伝染性病害に対する殺菌剤の使用回数を減らす <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 現在使用している技術内容を記載してください。 </div> (目標) 温湯種子消毒技術 ○機械除草技術 種子温湯処理により、殺菌剤の使用回数を減らす 機械除草により、除草剤の使用回数を減らす <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 導入予定の技術内容を記載してください。 </div>	※農薬の使用回数 現状 殺菌剤 1回 殺虫剤 5回 除草剤 6回 ※現在の農薬使用回数を記載してください 目標 殺菌剤 1回 殺虫剤 5回 除草剤 4回 ※5年後予定の農薬使用回数を記載してください

肥料を使用する場合は、窒素成分の割合等、肥料成分がわかる資料を添付してください。

再認定の場合は、原則として、有機質資材施用技術、化学肥料低減技術、化学農薬低減技術のうち、新たな技術を1つ以上導入する必要があります。(例では、機械除草技術が追加されています。) 技術の追加以外でも再認定できる場合があります。詳細は地方事務所農政課へお問い合わせください

(4) 農業所得の目標

	現 状	目 標
生産方式導入作物	「生産方式導入作物」欄には今回申請する農作物による所得金額について、「その他作物」には今回申請する農作物以外による所得金額について記入してください。	
その他作物		
合 計		

2 1の目標を達成するために必要な施設の設置、機械の購入その他の措置に関する事項

(1) たい肥等利用計画

	たい肥等有機質資材の種類	自 給	購 入	備 考
現状	たい肥などの有機質資材を使用する場合は、名称と、全投入量を記入してください。備考欄には、入手先や主な原料等を記載してください。			
目標				

注 「たい肥等有機質資材の種類」には、有機質資材の一般的な名称(例:牛ふんおがずたい肥)を記入すること。

(2) 機械・施設整備計画

現	備			期
種類・能力	トラクターや草刈り機等をお持ちの場合は、その種類と台数を記入してください。			
トラック	1			
軽トラック	1			
トラクター				
マルチ剥ぎ機				
運搬車				
耕運機	2			
管理機				
草刈り機	1			
育苗ハウス				

注 「種類・能力」には、機械・施設の一般的な名称(例:トラクター)及びその能力の程度(馬力、植付け条数等)を記入すること。

(3) 資金調達計画

資金使途	資金種類	金額	償還条件等	実施時期	備考
		千円			
合 計					

注1 「資金使途」には、整備する機械又は施設の一般的な名称を記入すること。

2 「資金種類」には、自己資金、制度資金(資金名を併記)その他の区分を記入すること。
制度資金は、別途申請のこと。

3 「金額」には、補助金等の助成措置がある場合には、括弧書で外数として記入すること。

4 「償還条件」には、償還期間(据置期間を含む。)及び据置期間を記入すること。

5 「実施時期」には、機械又は施設を導入する年月を記入すること。

3 その他

(例)

- 1 土壌診断を実施し、適正な施肥に努める。
- 2 病虫害予察除法等を利用して農薬散布は必要最低限に抑える。

土づくりのためにやっていることを記入してください。

注 土壌の性質を改善するための具体的内容、実施方法等を記入すること。

[添付資料]

- 1 持続性の高い農業生産方式を導入する作物を栽培するほ場の位置を判別することができる地図(各ほ場で栽培する作物名が分かるもの)
- 2 持続性の高い農業生産方式を導入する作物を栽培するほ場の土壌診断結果
- 3 くみあい肥料ガイドブックに掲載されていない肥料を用いる場合は、肥料成分がわかる資料